

活動記録書

開催日： 令和元年10月3日(木) 天候 曇一時晴	開催テーマ： 小田原城周辺の寺社を巡る
開催場所： 小田原	記入者： 杉山 茂
参加人数：	
会 員	男 21名 女 7名 計 28名
ビジター	男 名 女 1名 1名
合 計	29名
実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題 など）：	
<p>コース：箱根板橋駅－(小田原上水)－本応寺－光円寺－居神神社－玉伝寺－大久寺－西海子小路－小田原文学館－大蓮寺－正恩寺－小田原なりわい交流館(昼食)－松原神社－ういろう－報徳二宮神社－小田原城本丸広場(解散)</p> <p>雲は多いながら薄日が差し雨は心配なさそうな天気、定刻箱根板橋駅を出発、駅前の国道を横断してしばらく行くと小田原上水のほとりに着く、ガイドさんの説明によれば小田原地区には168ヶ寺あり、板橋地区は15ヶ寺ある、理由は戦国時代小田原の西側外周を守るためのお寺であるという、そのため古い宗派お寺が多いそうである。上水に沿って歩き最初のお寺はレジュメに記載の無い本応寺に到着、春日局が関係する由緒あるお寺。</p> <p>上水は光円寺手前で地下に潜り姿を消す、聞けば光円寺本堂の下を通っているとのこと、境内に大銀杏がある、付近は板橋見附であり往時の旅人が小田原城下町そして海へ出た漁師が小田原の目印としていた大木である。</p> <p>光円寺すぐ隣が居神神社、戦いに敗れた三浦義意が自らはねた首がこの地に飛んできた逸話のある神社、境内にある五輪塔・板碑は市の文化財である</p> <p>次は玉伝寺、北条氏が京都から招いた薬屋「ういろう」は北条氏の庇護下繁栄した、商品名・屋号・名字が同じ外郎家の私的なお寺、外郎家代々のお墓がある。</p> <p>大久寺に向かう途中国道から見た光円寺の大銀杏、大きく立派な姿を見ることができた。大久寺は大久保家の菩提寺、大久保氏の移動により一時衰退するが大久保氏の手により再興される。</p> <p>人車鉄道小田原駅跡を通り、西海子小路この地一帯は馬場、武家屋敷、別荘地と変遷し、生け垣として植えられていたサイカチの木に由来するそうだが現在は桜並木になっている。田中光顕(元宮内大臣)の別邸が小田原文学館として使用されている。</p> <p>西海子小路先に朝鮮通信使が宿泊した大蓮寺、さらに「尾三相州転遷之道場」と呼ばれる正恩寺を巡り、御幸浜で小休止、旧魚市場を通り小田原なりわい交流館に到着。旅籠、漁網問屋を経て無料のお休み場として整備された、ここにて昼食。</p> <p>午後は明治天皇宮ノ前行在所跡・本陣跡を巡り松原神社へ、松原神社は北条氏をはじめ歴代の城主の庇護を受け、小田原宿の総鎮守として発展した、現在も盛大な祭礼が挙行されている。</p> <p>「ういろう」の店前を通り最後の探訪先報徳二宮神社、明治27年に二宮尊徳を祭神とし建立された神社、境内には二宮尊徳の大人と子供の銅像があり、子供はおなじみマキを背負い読書する姿背丈は1m、メートル法が導入され1mの長さを認知させる背丈である。</p> <p>今日のコースは殆ど平坦で坂らしい坂は無かったが最後かなり急な坂を上り、最終小田原城本丸広場に全員無事到着した。</p>	
参加者の状況・意見など：	
<p>遅刻者が数名出たが最初の探訪先までには全員合流できたのは幸いであった。</p> <p>ガイドさんの説明は細かく丁寧にされ良かったが、訪問先の寺社が多かった割には重みが無かったような気がする</p>	
次回の予定：	
11月7日(木) 10時 横浜線 小机駅集合 「太田道灌が攻めた小机城址」	